

にいがた教育フォーラム 2017 in March

古田島 恵津子

3月4日（土）、新潟大学教職大学院院生の一年間の学びを報告し、新潟の教育についてともに考える「にいがた教育フォーラム 2017 in March」を新潟大学教育学部において開催した。県内外の教員・大学教員・関係者など、参加数はおよそ230名であった。

1. にいがた教育フォーラム 2017 in March プログラム

【午前】全体会・シンポジウム	
9:30	開会の挨拶（高橋姿学長・鈴木賢治研究科長）
9:45	基調講演「教育の未来と教職大学院の役割」 文部科学省大臣官房総括審議官 義本博司氏
10:40	シンポジウム
【午後】分科会	
13:30	院生・教員によるポスターセッション
14:40	6分科会によるラウンドテーブル
ラウンドテーブルのテーマ	
特別支援	学習参加が難しい子どもへの支援
学級づくり	教師と子ども、子どもと子どもの関係づくり
授業づくり	教科の本質に迫る学習課題の探究
グローバル化	グローバル化の進展に対応した英語教育
いじめ・不登校	いじめ・不登校のサイン見逃しが繰り返される背景
学校経営	教師の協働性を高めるチーム学校の体制づくり

2. 基調講演「教育の未来と教職大学院の役割」（義本博司氏）概要



- 1) 我が国における多様な教育課題
- 2) 今後の社会を支える人材育成の重要性
- 3) 改訂学習指導要領の強調点
 - ・「学びの地図」として提示
 - ・主体的・対話的で深い学びを実現

・高等学校の教科・科目構成、大学入試を含む高大接続改革

4) 学校現場における課題

・長時間勤務校、年齢構成の不均衡、初任者の力量不足

- ・養成、採用、研修の接続を重視した、学び続ける教師を支えるキャリアシステムの構築
- ・教員の業務負担軽減のための校務改善、業務の適正化

5) 教職大学院に対する期待

- ・大学と教育委員会と学校が連携・協働した課題を先取りした教員研修のハブとしての特色ある取組の実施

3. シンポジウム

小久保専攻長と4人のシンポジストから、「『教育の未来と教職大学院の役割』－これからの新潟の教育について語り合おう－」をテーマに発表があり、その後、フロアとの間で質疑応答が行われた。

1) 新潟大学大学院教育学研究科教育実践開発専攻長 小久保 美子

本学教職大学院におけるカリキュラムの全体、院生の履修イメージ、他の関係教育機関との連携等について説明。現職院生と学部卒院生各1名のエピソードを基に、実践知の形成、理論と実践の往還の具体的な姿を報告した。

2) 新潟市立上所小学校長 遠藤 英和氏

教師に求められる「学び続ける力」、特定連携協力校として学びを保障するシステムの構築、地域・学校の教育力向上への貢献に対する期待、教職大学院での学びを伝えるブリッジ講座が紹介された。

3) 新潟県教育委員会義務教育課参事 大橋 伸夫氏

学力向上等の県の教育課題、「課題を的確に捉え、協働的に授業改善を推進していく力量」「いじめを認知し的確に対応する力」など、教師に求められる6つの資質・能力等について説明があった。

4) 新潟市教育委員会教職員課課長補佐 池田 浩氏

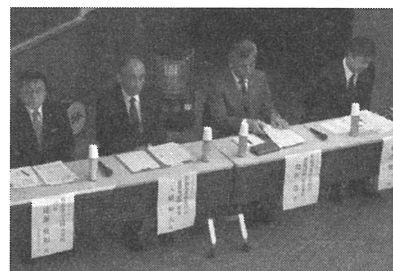
「授業力」「組織マネジメント力」「人間力」等市教委が求める教員の資質・能力を説明。また、教職大学院は、学校現場が求める資質や指導力を高める実践的なカリキュラムが実施していると評価。

5) 新潟県教育委員会高等学校教育課参事 藤澤 健一氏

進学率、就職率、離職率などの高校教育の現状と高校教育に求められる「相手の心を想像できる共感能力」や「目標を達成できる人」の育成、「考える楽しさを説くこと」について説明があった。

6) 参会者の声

「教職大学院の先進的な取組を知ることができた。院生同士の協働性（省察的実践家

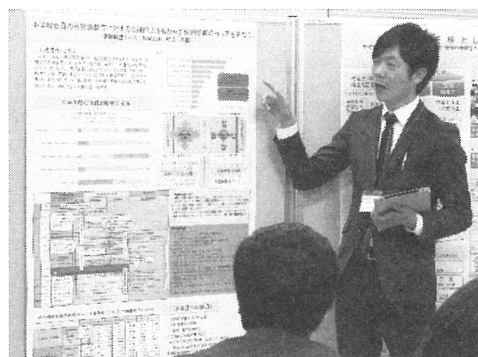


としての)を現場にもっと広めていただきたい。」「教職大学院ができたことで、現場にどのような利点があるのかがもっと伝わるとよいと思った。」などの声が聞かれた。

4. ポスターセッション

4つのテーマ(①学級づくり②特別支援③授業づくり④学校経営)に分かれて、各院生が1年間の学びを報告した。各会場では、院生の説明に続いて、それに基づく活発な質疑応答が行われた。

参会者からは、「現場に直結する内容の発表で、役立てられそうなものが多かった。学術的ではなかったが、実践的だと感じた。」「管理職ではなくてもアイデアを出し、学校運営に参画できる実践例を聞くことができるとてもよかった。」などの声が聞かれた。



5. ラウンドテーブル

参会者に6つテーマの中から1つを選択してもらい、各会場に分かれてもらった。各会場では5人以下の小グループに分かれ、院生や教員がファシリテーターとなって話し合いを進めた。テーマに関連する実践や悩みなどを一人ひとりが語り、それをじっくりと聴き合い、質問をし合い、互いの実践から学び合う活動が展開された。

参会者からは、「職場も、校種も、立場も異なる先生方とじっくり話をできたのはすばらしい経験でした。管理職の先生方の構えに



大変刺激を受けました。このような機会が増えるといいです。」「ざっくばらんな中であっても、今後の自校の研修の在り方について考えることができたり、純粋に『考える』ことを楽しむことができたりしました。」という声が聞かれた。

6. 次年度に向けて

「にいがた教育フォーラム2017」の各内容について、参会者からいずれも肯定的な評価を得ることができた。特に、参会者自身が自分の実践を語り、じっくりと聞き合うラウンドテーブルに対する評価が高かった。「これからの新潟の教育について語り合おう」というテーマを深めることができた。今後さらに実施方法を工夫し、理論と実践をつなぐ場として継続して提供をしていきたい。